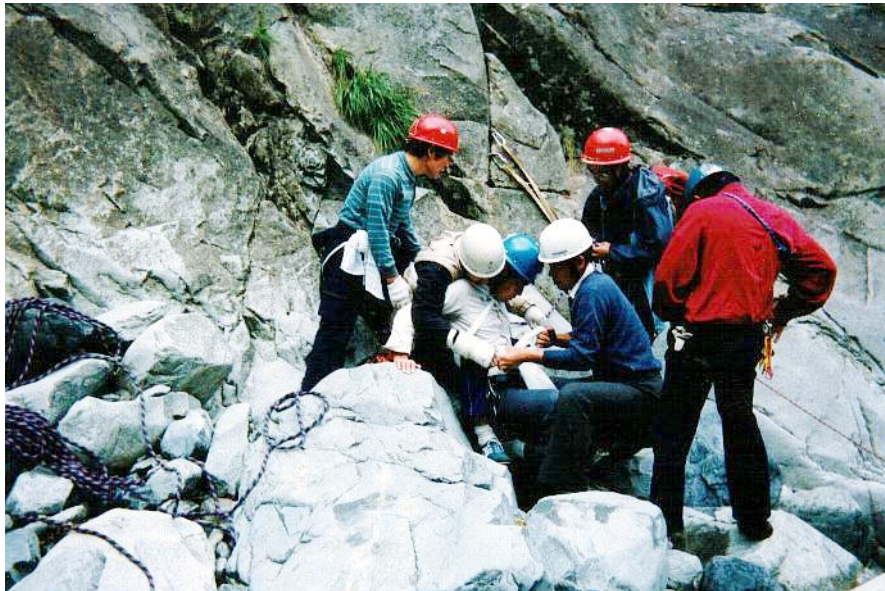


AGS Jレスキュー技術講習会 団体講習会のご案内



平成22年度版

主催：社団法人日本アルパインガイド協会・遭難対策委員会

後援団体： 土合山の家、仙人温泉小屋、(株)ヴァーテックス

レスキュー技術の団体講習会

社団法人日本アルパインガイド協会では正しい登山技術の普及とともに、遭難対策技術の普及に努めています。毎年フランス国立登山スキー学校（ENSA）での技術研修を行うとともに国内においても協会の技術研修を行っています。そこで多くの登山者の一助となれることを願って、実践的レスキュー技術講習会、及びレスキュー技術の団体講習会を催しています。

自治体防災関係者、山岳レインジャー、山岳救助隊、学校山岳部、ワンダーフォーゲル部、探検部、職域山岳会、社会人山岳会におけるレスキュー技術講習会へ講師としてガイドを派遣致します。御希望の場所、内容、日程で講習会を行うことが出来ます。各団体に合った技術アップを図ることが一層の安全登山に繋がるものと思います。日本国内どちらへも派遣致します。御検討賜りますようお願い申し上げます。

平成22年6月30日 AGS-J 遭難対策委員会

講習内容について

レスキュー講習会の内容については、御依頼団体の御希望により対応いたします。

よって御打ち合わせの上で決定いたします。一般的な例として下記に岩場でのレスキュー技術講習項目を列記いたします。

(例) 岩場でのレスキュー技術

- ① 救助用支点の作り方
- ② 救助用ロープの結び方、とその使い方
- ③ 仮固定の方法
- ④ 自己脱出
- ⑤ 懸垂下降中ブロックした際の救助法
- ⑥ 引き上げ技術 (1/2、1/3、1/5、1/7、1/9)
- ⑦ 降ろし技術 (一人での降ろし技術法、二人以上での降ろし技術法、ロープの継ぎ足しでの降ろし技術法、結び目通過方法、等)
- ⑧ オーバーハングでの宙吊りからの救助技術
- ⑨ レスキューシートの使い方
- ⑩ 固定ロープの張り方 (チロリアンロープ含む)
- ⑪ 基礎技術の机上講習

●レスキュー講習種類別としては、次の内容となります。

- ・ 岩場でのレスキュー技術講習
- ・ 雪上でのレスキュー技術講習
- ・ 氷河上でのレスキュー技術講習
- ・ 山岳スキーでのレスキュー技術講習

●レスキュー技術検定について

団体でのお申し込みでは、講習及びレスキュー技術検定をご希望により実施することが出来ます。しかしながら、検定の内容につきましては初級、中級、上級の3種に分かれ検定項目も決まっていますので、検定の内容変更は出来ません。また、レスキュー検定では岩場のみの対応となっています。次の内容となっています。

(初級レスキュー技術検定)

- ① レスキューに必要なロープの結び方、使い方 (半マスト結び/仮固定の結び/固定の結び/フリクションヒッチ/Kシステム)
- ② 支点技術 (流動分散、固定分散の技術/荷重角度についての技術/アジャスト可能なスリングの使い方)
- ③ 懸垂下降技術 (半マスト結びでの下降/他の器具を使用しての下降技術/懸垂下降での二人降り)
- ④ ロープの仮固定技術 (確保時の仮固定/懸垂下降時の仮固定/リード確保時の脱出)
- ⑤ パートナーの吊り降ろし技術 (背負ってのカウンターラッペル/補助しながら歩いてのカウンターラッペル/補助者の操作による背負い降ろし)
- ⑥ 緩傾斜での1/2、1/3、1/5の引き上げ技術
- ⑦ 固定ロープの張り方
- ⑧ 自己脱出技術
- ⑨ 怪我人の梱包、搬送技術

(中級レスキュー技術検定)

- ① 支点のセット、レスキュー器具、ロープの使用法 (基礎技術)
 - ② コブの通過技術 (基礎技術)
 - ③ 垂壁での自己脱出技術 (基礎技術)
 - ④ 背負っての搬送技術 (基礎技術、山道100mほどで行う)
 - ⑤ 垂壁での引き上げによる救助技術10m以上
- ・ 中級=3分/m以内を合格ラインとする。
 - ・ 2種以上のシステム (1/3 1/5 1/7 1/9) を使用する。
 - ・ 被救助者を確保状態からスタートさせる。
- ⑥ 垂壁での背負ってのカウンターラッペルによる降ろし技術20m以内とする。
 - ⑦ 垂壁での懸垂下降中のトラブルからの救出技術 (上方からの救助)
 - ⑧ 応急処置 (足の骨折)

(上級レスキュー技術)

- ① レスキュー器具、ロープの使用法 (基礎技術)
 - ② コブの通過技術 (基礎技術)
 - ③ 自己脱出技術 (基礎技術)
 - ④ 背負っての搬送技術 (基礎技術、山道100mほどで行う)
 - ⑤ 引き上げ技術10m以上
- ・ 上級=2分/m以内を合格ラインとする。
 - ・ 2種以上のシステムを使用する。
 - ・ 被救助者を確保状態からスタートさせる。
- ⑥ 背負ってのカウンターラッペルによる降ろし技術30~40mとする。
 - ⑦ オーバーハングでの宙吊りからのレスキュー技術
 - ⑧ 懸垂下降中のトラブルからの救出技術 (上方からの救助)
 - ⑨ 応急処置 (足の骨折)
 - ⑩ 支点のセット理論と墜落の力学、安全管理 (筆記試験、4者択一、記述、20問)

